

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190200234		
法人名	社会福祉法人 桜友会		
事業所名	グループホームほほえみ栄町(南ユニット)		
所在地	岐阜県関市栄町2丁目8番1		
自己評価作成日	平成31年1月28日	評価結果市町村受理日	令和1年6月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.nhi.w.go.jp/21/i/ndex.php?acti.on.kouhyou.detail.2017.022.kami.tru&sl.gvovsOd=2190200234-00&PrfOd=21&Ver:si.onOd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7
訪問調査日	平成31年3月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・今年度の4月には開設3年目を迎えます。ご家族様との関係を保ちつつ、人との関係を大切に職員ともども元気に穏やかに過ごし、日々の中に笑顔あふれる施設となるよう取り組んでいます。ご家族様からの意見を頂戴することで改善を講じることもあります。職員が「すぐに、改善策を…」と早急に取り組む姿勢も見られるようになりました。今後も、ご本人様、ご家族様、地域の皆様、法人職員からの意見を聞きながら地域密着型施設として愛される施設、頼られる施設となるよう努めていきたいと思っております。

・昨年は異常気象もあり例年に比べ災害も多く発生しております。施設として地域の「力」となれるように災害時の受入れや行政との連携も適切に早急に行えるよう取り組んでいきたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

関市の商店街の中にあり、住宅とも隣接しているため、開設当初から地域のお宅を訪問し、運営推進会議の案内やカフェ等の行事パンフレットを配布している。その結果、地域の方々に来所していただき、グループホームについての話をしていく中で、ホームに対する理解を深めてもらっている。また、運営推進会議への出席者も多く、ホームの報告を中心とする内容であっても、様々な意見が交わされている。ホームは集会所としても利用され、地域の敬老会の会場として提供するなど地域の声に応えている。家族に対する意見収集や情報提供の工夫として、面会時の声かけや可愛らしくデザインされた意見箱の設置、職員紹介の掲示物、居室入り口の担当職員の顔写真入りの一言コメントを作成している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスとしての意義を会議や勉強会を通し職員同士が共有できるよう努めている。また、法人理念については、毎月の会議で、声に出し読みあげており職員の意識付けにつなげている。	毎月の会議において、理念について唱和し、意識を高めている。また、全職員に配布したり、ホーム内に掲示したりしている。毎週の小ミーティングでも、月に1回、勉強会で理念は介護の基本であり、大切であることについて職員間で話し合い、ケアの実践に反映させている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で行われる行事や季節での催し物のほかに、認知症カフェを開催し、地域の方との交流の場を設けている。	認知症カフェは市の委託を受け、毎月開催している。チラシを配布する等しており、毎回多くの参加者がある。また、地域からの声に応え、1階ホールを地域の敬老会会場として提供している。カフェや敬老会には入居者も参加し、参加者と交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「認知症」に関する勉強会を定期的に行っており参加者も増えている。当施設には居宅介護支援事業所もあることから相談窓口としても活用している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月毎に運営推進会議を開催。入居者様の活動報告や状態・職員の認知症への取り組みに対する報告を行っている。意見・課題となるものがないかを挙げ、上司や役員に報告・相談を行いながらサービスの向上に生かしている。	毎回、出席者には案内を持参する等しており、自治会長はじめ、民生委員などの地域役員の出席も多い。また、家族にも仕事に配慮した上で声をかけているので、多数の方に出席していただいている。ホーム内の話題に限らず、少子化問題や買い物先の減少等、社会情勢や地域の実情も意見交換されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者には、運営推進会議に出席を依頼しその際に、事業所の取り組み・活動について報告している。また、1～2ヶ月に1回程度だが、介護相談員の訪問にてサービスの取組などの助言を頂くなどして、協力体制を築いている。	年間を通じて、事前に運営推進会議の予定を案内しているので、毎回出席していただき、報告の内容について、助言してもらっている。また、事故や感染症等、すみやかに報告する等して連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設玄関の施錠に関しては平日の日中は開錠しているが、夜間・休日は安全確保のために施錠している。訪問者や入居者様が希望する場合は要望に応じて開錠することとしている。身体拘束に関しては事例はなく、今後も行わない予定である。	防犯上の観点から、夜間帯は玄関の施錠を行っているが、必要時には開錠し対応している。転倒等のリスクについて、家族に説明し、抑制等をしないよう気をつけている。また、言葉遣い等コミュニケーションの仕方によって、抑制につながることを学び合う等して、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての認識を深めるために、日常的な言葉かけや表情、環境面での規制なども虐待に繋がることを勉強会にて周知を図っている。個々に職員への聞き取りなども行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	行政と関る機会があり権利擁護と活用に向けての意見を聞くことができ勉強となった。今後も、機会があれば参加し学びの糧としたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定の場合は、来所して頂き書面にて説明している。契約時には、看取り介護・重度化した場合についての対応方針を説明し書面にて同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年、アンケート調査を行い満足度や要望等がないかを確認。運営推進会議や機関誌に公表。事業所においても書面にて全職員が閲覧し認識を持つことが出来るようにしている。また、ご意見を下に、次年度に向け改善できるよう取り組んでいる。	毎年、アンケートによる満足度調査を行っている。面会時には、声かけする等して、利用者家族の意見聴取に努めている。また、意見箱には書きやすく工夫された用紙も準備されている。可愛い職員紹介の掲示も、意見を収集するための工夫の一つである。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、行われている会議を通し業務改善・気付きなどを伝える場としている。年に数回、職員と面談を行うことでそれぞれの意見を聞き、反映できるようにしているが効果は薄いと感じている。	週1回的小ミーティングや毎月の会議等で職員の意見を取り上げている。また、年2回の面談も意見を聞く場になっている。職員の意見や提案が出された場合には、運営に反映させるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日常的に個々に、声をかけるようにしているが把握できないこともあり、年2回の面談時を利用し意見を聞くようにしている。しかし、現在の自分には力不足と感じている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	利用者の合わせた援助内容となっているかを確認。また、自立支援にも繋がっているかを確認している。日々、学ぶ必要もあり、施設内外の勉強会も含め介護技術の向上につなげたいと思います。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設内・外部の研修に参加することで他事業所との交流を図り情報交換等を行いながらサービスの質の向上につなげるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	正確な情報を頂くことを基本とし、入居前には見学を頂き、ご本人の「不安・思い」を聞き取りながら安心して生活できる環境を整えている。また、担当職員を決め信頼関係作りにつなげている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みの際にはご家族より自宅での様子や困っている事、入居に関して不安などが無いかを聞き取っている。担当職員を紹介し今後の関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・ご家族が必要としている支援内容を確認。必要に合わせ提案を行い、サービス機関との連携を早急に行えるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできる事が今後も継続できるように支援を勧め、出来ない部分についても全面的な援助にならないように一緒に取り組むようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に「便り」を作成しご本人の近況を伝えるなどしている。また、できる限り書類などは手渡しで対応していく事としご家族様のご様子も確認しながら関係の継続につなげている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係が継続できるよう、ご家族様には協力をお願いし、友人・知人の方にはいつでも来所していただけるように伝えてもらっています。	馴染みの関係について、入居時や日頃のコミュニケーション時に把握し、記録に残している。家族、親戚、友人、知人等の来訪があったり、外出に出かけたりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士が快適に生活できるよう、相性や雰囲気を見て環境を提供している。職員が間に入り、場を盛り上げることもあるがお互いに信頼関係を築けるようにも支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された利用者様・ご家族に対しては今後も継続し支援していくことを伝えていきます。必要に合わせていつでもご相談に来てくださいと伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中での交流から本人の思いや希望を聞きだすこととしている。また、意思表示が困難な方に対しても日常生活動作や表情からくみ取るようにしており、他職員からの情報収集できるように会議の場を設けている。	利用者の思いや意向を尊重した支援に心がけ、把握できた本人の意向について、必要な場合は家族にも伝えている。意思疎通の困難な方であっても、表情やしぐさ等から、サインを読み取り、職員に伝えたり、小ミーティング等、職員間で情報を共有したりしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居が決定後、ご家族より本人の生活歴・環境・サービスを利用するにあたり経過などを聞き取り把握するよう努めている。また、支援経過を確認しながら支援の適正化を確認している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人ケースの記録や申し送り事項を確認し、利用者の変化や現状を把握し現状維持にむけて支援を確認している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画書に基づきケアチェック表を作成。適切な援助となっているかを確認している。また、定期的にミーティングを開催し職員の意見を参考に必要にあわせて本人・ご家族・介護職員と担当者会議を開催し計画書を見直している。	3か月に1回の見直しを基本に、ケアチェック表を用いて、プラン内容の実施状況を確認している。家族には面会時に意向を把握するよう努め、利用者の状況と家族の意向が一致しない場合でも、きちんと説明する機会を設け、意見をすり合わせた上でプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録表(日常生活の様子・健康面)の作成と記録。個々に気付いたことに関しては個人記録に記載し会議の場にて周知を図り介護計画書の見直しの際に活かしている。(現在、週1回・月1回の会議を設けている)		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の要望やニーズに対応できるよう現状を確認している。また、同施設内にあるデイサービスと交流を図ることで要望や意向を組み込むことができるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事の開催時に参加していただけるボランティアとの交流の場を設けたり市役所からの介護相談員の受け入れにて意見を参考にしながら心豊かに楽しめる暮らしを送れる様に支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・ご家族等からの要望を重視し、かかりつけ医との信頼関係を継続できるようにしている。また、かかりつけ医とは、電話やFAXでの情報を共有できるようにしている。	本人や家族の希望するかかりつけ医を継続することもできるが、受診の利便さを考えて、法人の病院に変更される場合も多い。往診も受けることができるが、専門医等への他科受診は、家族対応をお願いしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医とは電話での相談や指示を受けるなどを行いながら利用者様が適切に受診・看護を受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先への情報提供と訪問にて状態を確認。退院に向けての治療方法や期間・退院後の生活面での注意点を確認している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に行われる契約時を利用し重度化・看取りに関する内容を口頭にて説明している。また、「看取りに関する指針」により実際に、重度化した場合は、再度、ご家族の思いを確認し今後の方向性について話し合いの場を設けている。	入居時に、本人や家族にターミナルケアの方針について説明している。重度化した時にはもう一度説明し、本人や家族の意向を聞き、希望に添えるようにしている。また、職員は、「看取りについて」の勉強会を実施する等して、研鑽に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変や事故発生時に備え、日中・夜間共に「緊急マニュアル」を作成し全職員に書面にて配布。また、不定期ではあるが事業所内で勉強会や法人での勉強会に参加。初期対応の訓練も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練(日中・夜間)を実地。GHのキッチンから出火を想定し行った。また、運営推進会議を利用し近隣地域が災害を受けたときには協力体制を整えていることも伝える。	定期的に避難訓練を実施している。昼夜を想定したり、抜き打ちの訓練を行う事により、有事の際に、迅速な対応ができるようにしている。近隣には高齢者宅が多いので、災害時には、ホームも協力ができると伝えていた。	昨今の異常気象により、県内で台風による被害が出ていることを考えると、ますます、避難訓練の取り組みの強化が求められる。今後とも各種災害をより現実的に捉え、具体性のある詳細な訓練の実施に向けた取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様へは、人生の先輩であることを忘れず尊敬の意を示しながら接するように伝えている。勉強会を通しケアの中でプライバシーが守られているかなどを確認している。	尊厳を持って接するように勉強会で確認しているが、利用者の尊厳を守っていくという観点から、プライドの尊重やプライバシー保護への配慮について勉強会を開催する等して職員の研鑽に努めている。日常的ケアの場面場面で、例えばトイレ誘導や入浴の際にはさりげない声かけや利用者それぞれの状況に合わせた言葉遣い、声のトーン等に留意し、誇りやプライバシーを損ねないように心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様との関係を築くことで本人の意向を確認できるように働きかけは必須と思います。今後も継続し本人からの声が聞かれるようになります。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務のタイムスケジュールは作成していますが、本人の意向と合致しない事も多々あるので都度、予定を変更しながら対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服や髪型などについては本人の希望を聞き取りながら支援するようにしている。理容に関してもできるだけ同じ髪形にならないように個性を生かせるよう、業者の方には協力をお願いしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	会話を楽しみながら食事が摂れたり、食事時の様子を確認しバランスの取れた提供ができていいるかを確認している。また、食事の準備や片付けなども声をかけ参加できる機会も設けるように努めている。ケアプランの中にも組み込むようにしています。	様々な柄のランチョンマットを使用し、好きな柄を選んでもらう等、食事が楽しみになるよう努めている。利用者の状況や能力に応じて準備、後片付けに参加してもらい、役割をもってもらうとともに、会話しながら和やかに食事がとれるよう配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嗜好調査と残菜等を確認。形状・量も確認。バランスの取れた摂取ができるよう心掛けている。水分量や飲み込み・咀嚼等にも注意し必要に応じて主治医に報告し代替え食や調理法などを変更し提供出来るよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの実行は概ねの方ができている状態ではありますが、物品の適正については個々に違うこともあるので今後も物品については確認しながら適切に購入していく必要があると思います。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別での排泄行動を把握するために排尿・排便について排泄確認表を作成。清潔を保つ事や使用する排泄用品の種類なども検討し対応している。個々にあわせた物品の使用を継続していく。	排泄チェック表により、利用者一人ひとりの個人の排泄状況を把握し、利用者が不快な思いをしないようトイレ誘導する等配慮している。尿の吸収量に応じて、数種類のパットを準備し、利用者それぞれの状況に合ったパットを使用する等して、経済的な負担に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄パターンを確認。できるだけ、下剤に頼らず自然排便に繋がるように食物繊維の摂取と体を適度に動かすことでの排便につなげている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴のお誘いをする際に、体調・本人の表情などを確認することでタイミングを見ながら声かけている。ご利用者の希望時間などにも注意しておりできるだけ快適に入浴できるよう支援している。	入浴を拒まれる場合には、利用者の表情や言動を観察し、その背景を推察して気持ち良く入浴してもらえるよう工夫している。季節感を楽しんでもらえるよう季節の入浴剤を使用している。また、状況に応じて好みのボディソープを使用してもらっている。	ユニットごと、週ごとに、午前午後を入れ替えて提供しているが、利用者のそれぞれの希望、その人のペース、生活スタイルに配慮し、日程や時間帯等についてより柔軟に対応すべく、検討に向けた取り組みに期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具の清潔を保つために週1回の洗濯と適度な布団干しの時間を確保。体を休める菜に気持ちよく安らげるようにと支援している。季節に合わせた寝具を家族に依頼している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルにて「薬情」を管理している。職員が必要にあわせ確認作業や変更気付、変化が見られた時には、報告・相談を受け必要時には主治医への相談につなげている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前の生活歴や嗜好品、楽しみにしていることなどを確認。入居後は日常的な会話の中での馴染みの生活を知り、役割を持っていただくなどして気分転換につなげ支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の意向を確認。自宅には戻れないがせめて家が綺麗に保っているか？(台風などで木々が倒れていないか？)を自分の目で確認したいとの事に対応することもありました。今後も、可能な限り対応できるようにします。	日頃の近隣散策に加え、買い物支援を行っている。例えば、近所の薬局へ月1回職員と出かけ必要な品を購入している。頻回に外出はできないが、少しでも屋外に出かける気分を味わって頂こうと、ホーム前の広場で喫茶コーナーを臨時開設し、コーヒーを飲んでいただく等して喜んでいただいている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人から買い物の希望が聞かれた時はご家族に伝え了解を受けてから職員の付き添いの下、買い物に出かけ金銭の支払いも可能な限り本人の手元から払えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望が聞かれた時は、電話先まで案内を行いご家族様宅に電話をつないでいます。連絡が取れない場合、ご本人の精神的な不安定につながらないように再度、連絡を入れるなどの対応を行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせてホールの飾り付けや家具の位置を変えるなどしている。特に、季節が変わると太陽が当たる角度や風が入り込むなどの現象があることで不快を感じられる利用者様もおられるので考慮しながら対応しています。	明るく、清潔感や温かみを感じさせる空間である。季節に合った飾りが施されており、落ち着いた雰囲気の中、利用者はゆったりと共用スペースで一日を過ごされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事時のテーブルの位置は変更できないのですが余暇時間やお茶を頂く時間などは座席を決めないようにして18名の方が行き来できるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族様には馴染みのものを持参して頂く様に伝えている。また、ご本人の大切にしていた物や写真なども持参をお願いしている。入所後は季節の行事に参加した時の写真や作品を居室内に飾るなどして工夫している。	部屋には、自分で書かれた絵・塗り絵等と共に、外出先での写真や、行事参加時の写真が飾られており、居心地の良さが感じられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自身の居室がわかるように居室扉には「表札」を作成。安心感と本人らしく生活できる環境作りを目指し工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190200234		
法人名	社会福祉法人 桜友会		
事業所名	グループホームほほえみ栄町(東ユニット)		
所在地	岐阜県関市栄町2丁目8番1		
自己評価作成日	平成31年1月28日	評価結果市町村受理日	令和1年6月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/21/i/index.php?act=ion_kouhyou_detail_2017_022_kani_true&aj_gvosyoCd=2190200234-00&PrefCd=21&Ver:si_onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7
訪問調査日	平成31年3月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・今年度の4月には開設3年目を迎えます。ご家族様との関係を保ちつつ、人との関係を大切にし職員ともども元気に穏やかに過ごし、日々の中に笑顔あふれる施設となるよう取り組んでいます。ご家族様からの意見を頂戴することで改善を講じることもあります。職員が「すぐに、改善策を…」と早急に取り組む姿勢も見られるようになりました。今後も、ご本人様、ご家族様、地域の皆様、法人職員からの意見を聞きながら地域密着型施設として愛される施設、頼られる施設となるよう努めていきたいと思ひます。

・昨年は異常気象もあり例年に比べ災害も多く発生しております。施設として地域の「力」となれるように災害時の受入れや行政との連携も適切に早急に行えるよう取り組んでいきたいと思ひます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスとしての意義を会議や勉強会を通し職員同士が共有できるよう努めている。また、法人理念については、毎月の会議で、声に出し読みあげており職員の意識付けにつなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で行われる行事や季節での催し物のほかに、認知症カフェを開催し、地域の方との交流の場を設けている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「認知症」に関する勉強会を定期的に行っており参加者も増えている。当施設には居宅介護支援事業所もあることから相談窓口としても活用している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月毎に運営推進会議を開催。入居者様の活動報告や状態・職員の認知症への取り組みに対する報告を行っている。意見・課題となるものがないかを挙げ、上司や役員に報告・相談を行いながらサービスの向上に生かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者には、運営推進会議に出席を依頼しその際に、事業所の取り組み・活動について報告している。また、1～2ヶ月に1回程度だが、介護相談員の訪問にてサービスの取組などの助言を頂くなどして、協力体制を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設玄関の施錠に関しては平日の日中は開錠しているが、夜間・休日は安全確保のために施錠している。訪問者や入居者様が希望する場合は要望に応じて開錠することとしている。身体拘束に関しては事例はなく、今後も行わない予定である。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての認識を深めるために、日常的な言葉かけや表情、環境面での規制なども虐待に繋がることを勉強会にて周知を図っている。個々に職員への聞き取りなども行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	行政と関る機会があり権利擁護と活用に向けての意見を聞くことができ勉強となった。今後も、機会があれば参加し学びの糧としたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定の場合は、来所して頂き書面にて説明している。契約時には、看取り介護・重度化した場合についての対応方針を説明し書面にて同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年、アンケート調査を行い満足度や要望等がないかを確認。運営推進会議や機関誌に公表。事業所においても書面にて全職員が閲覧し認識を持つことが出来るようにしている。また、ご意見を下に、次年度に向け改善できるよう取り組んでいる。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、行われている会議を通し業務改善・気付きなどを伝える場としている。年に数回、職員と面談を行うことでそれぞれの意見を聞き、反映できるようにしているが効果は薄いと感じている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日常的に個々に、声をかけるようにしているが把握できないこともあり、年2回の面談時を利用し意見を聞くようにしている。しかし、現在の自分には力不足と感じている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	利用者の合わせた援助内容となっているかを確認。また、自立支援にも繋がっているかを確認している。日々、学ぶ必要もあり、施設内外の勉強会も含め介護技術の向上につなげたいと思います。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設内・外部の研修に参加することで他事業所との交流を図り情報交換等を行いながらサービスの質の向上につなげるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	正確な情報を頂くことを基本とし、入居前には見学を頂き、ご本人の「不安・思い」を聞き取りながら安心して生活できる環境を整えている。また、担当職員を決め信頼関係作りにつなげている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みの際にはご家族より自宅での様子や困っている事、入居に関して不安などが無いかを聞き取っている。担当職員を紹介し今後の関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・ご家族が必要としている支援内容を確認。必要に合わせ提案を行い、サービス機関との連携を早急に行えるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできる事が今後も継続できるように支援を勧め、出来ない部分についても全面的な援助にならないように一緒に取り組むようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に「便り」を作成しご本人の近況を伝えるなどしている。また、できる限り書類などは手渡しで対応していく事としご家族様のご様子も確認しながら関係の継続につなげている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係が継続できるよう、ご家族様には協力をお願いし、友人・知人の方にはいつでも来所していただけるように伝えてもっています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士が快適に生活できるよう、相性や雰囲気を見て環境を提供している。職員が間に入り、場を盛り上げることもあるがお互いに信頼関係を築けるようにも支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された利用者様・ご家族に対しては今後も継続し支援していくことを伝えていきます。必要に合わせていつでもご相談に来てくださいと伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中での交流から本人の思いや希望を聞きだすこととしている。また、意思表示が困難な方に対しても日常生活動作や表情からくみ取るようにしており、他職員からの情報収集できるように会議の場を設けている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居が決定後、ご家族より本人の生活歴・環境・サービスを利用するにあたりの経過などを聞き取り把握するよう努めている。また、支援経過を確認しながら支援の適正化を確認している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人ケースの記録や申し送り事項を確認し、利用者の変化や現状を把握し現状維持にむけて支援を確認している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画書に基づきケアチェック表を作成。適切な援助となっているかを確認している。また、定期的にミーティングを開催し職員の意見を参考に必要にあわせて本人・ご家族・介護職員と担当者会議を開催し計画書を見直している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録表(日常生活の様子・健康面)の作成と記録。個々に気付いたことに関しては個人記録に記載し会議の場にて周知を図り介護計画書の見直しの際に活かしている。(現在、週1回・月1回の会議を設けている)		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の要望やニーズに対応できるよう現状を確認している。また、同施設内にあるデイサービスと交流を図ることで要望や意向を組み込むことができるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事の開催時に参加していただけるボランティアとの交流の場を設けたり市役所からの介護相談員の受け入れにて意見を参考にしながら心豊かに楽しめる暮らしを送れる様に支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・ご家族等からの要望を重視し、かかりつけ医との信頼関係を継続できるようにしている。また、かかりつけ医とは、電話やFAXでの情報を共有できるようにしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医とは電話での相談や指示を受けるなどを行いながら利用者様が適切に受診・看護を受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先への情報提供と訪問にて状態を確認。退院に向けての治療方法や期間・退院後の生活面での注意点を確認している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に行われる契約時を利用し重度化・看取りに関する内容を口頭にて説明している。また、「看取りに関する指針」により実際に、重度化した場合は、再度、ご家族の思いを確認し今後の方向性について話し合いの場を設けている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変や事故発生時に備え、日中・夜間共に「緊急マニュアル」を作成し全職員に書面にて配布。また、不定期ではあるが事業所内で勉強会や法人での勉強会に参加。初期対応の訓練も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練(日中・夜間)を実地。GHのキッチンから出火を想定し行った。また、運営推進会議を利用し近隣地域が災害を受けたときには協力体制を整えていることも伝える。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様へは、人生の先輩であることを忘れず尊敬の意を示しながら接するように伝えている。勉強会を通しケアの中でプライバシーが守られているかなどを確認している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様との関係を築くことで本人の意向を確認できるように働きかけは必須と思います。今後も継続し本人からの声が聞かれるようになります。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務のタイムスケジュールは作成していますが、本人の意向と合致しない事も多々あるので都度、予定を変更しながら対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服や髪型などについては本人の希望を聞き取りながら支援するようにしている。理容に関してもできるだけ同じ髪形にならないように個性を生かせるよう、業者の方には協力をお願いしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	会話を楽しみながら食事が摂れたり、食事時の様子を確認しバランスの取れた提供ができているかを確認している。また、食事の準備や片付けなども声をかけ参加できる機会も設けるように努めている。ケアプランの中にも組み込むようにしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嗜好調査と残菜等を確認。形状・量も確認。バランスの取れた摂取ができるよう心掛けている。水分量や飲み込み・咀嚼等にも注意し必要に応じて主治医に報告し代替え食や調理法などを変更し提供出来るよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの実行は概ねの方ができている状態ではありますが、物品の適正については個々に違うこともあるので今後も物品については確認しながら適切に購入していく必要があると思います。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別での排泄行動を把握するために排尿・排便について排泄確認表を作成。清潔を保つ事や使用する排泄用品の種類なども検討し対応している。個々にあわせた物品の使用を継続していく。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄パターンを確認。できるだけ、下剤に頼らず自然排便に繋がるように食物繊維の摂取と体を適度に動かすことでの排便につなげている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴のお誘いをする際に、体調・本人の表情などを確認することでタイミングを見ながら声かけしている。ご利用者の希望時間などにも注意しておりできるだけ快適に入浴できるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具の清潔を保つために週1回の洗濯と適度な布団干しの時間を確保。体を休める菜に気持ちよく安らげるようにと支援している。季節に合わせた寝具を家族に依頼している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルにて「薬情」を管理している。職員が必要にあわせ確認作業や変更気付、変化が見られた時には、報告・相談を受け必要時には主治医への相談につなげている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前の生活歴や嗜好品、楽しみにしていることなどを確認。入居後は日常的な会話の中での馴染みの生活を知り、役割を持っていただくなどして気分転換につなげ支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の意向を確認。自宅には戻れないがせめて家が綺麗に保っているか？(台風などで木々が倒れていないか?)を自分の目で確認したいとの事に対応することもありました。今後も、可能な限り対応できるようにします。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人から買い物の希望が聞かれた時はご家族に伝え了解を受けてから職員の付き添いの下、買い物に出かけ金銭の支払いも可能な限り本人の手元から払えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望が聞かれた時は、電話先まで案内を行いご家族様宅に電話をつないでいます。連絡が取れない場合、ご本人の精神的な不安定につながらないように再度、連絡を入れるなどの対応を行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせてホールの飾り付けや家具の位置を変えるなどしている。特に、季節が変わると太陽が当たる角度や風が入り込むなどの現象があることで不快を感じられる利用者様もおられるので考慮しながら対応しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事時のテーブルの位置は変更できないのですが余暇時間やお茶を頂く時間などは座席を決めないようにして18名の方が行き来できるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族様には馴染みのものを持参して頂く様に伝えている。また、ご本人の大切にしていた物や写真なども持参をお願いしている。入所後は季節の行事に参加した時の写真や作品を居室内に飾るなどして工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自身の居室がわかるように居室扉には「表札」を作成。安心感と本人らしく生活できる環境作りを目指し工夫している。		